

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信—

～会員だより～

新潟県の上越市と柏崎市から —豪華客船・飛鳥クルーズを2件—

新潟県 上越市 (直江津港)



姉妹都市交流と直江津港のポートセールスを主な目的として、平成10年8月24日から8月27日までの4日間、豪華客船「飛鳥」で、市内外の皆さん472名が姉妹都市の北海道岩内町などを訪れ、町民と友好を深める一方、晩夏の北海道を堪能しました。

参加者の皆さんは、船上でも、日常から解放された優雅な時間を満喫し、交流も深め、大きな満足感を胸に帰港しました。

今回のクルージングには、2桁のリピーターの参加があり、また、再びの参加を希望される方も多く、飛鳥クルージングも市民の船としてすっかり定着しました。

今後、2001年の市政30周年の記念に、日本海対岸へのメモリアルクルージングとして、「大航海・大交流時代」にふさわしい友好親善の船を予定しています。

新潟県 柏崎市 (柏崎港)



平成10年8月28日から8月31日の3泊4日の日程で、柏崎港中浜埠頭3号岸壁から豪華客船「飛鳥」によるクルージングが乗客546名を乗せ韓国釜山へ向けて開催されました。

このクルーズは、昨年のウラジオストクへの旅について今年で2回目。すっかり柏崎市民に

「飛鳥」総トン数	/	28,717 t
全長		192.8 m
全幅		24.7 m



お馴染みになった豪華客船を一目見ようと大勢の人々が港に集まりました。

3倍近い倍率を見事抽選で射止めた市内外の546名が乗船し、雨の中、柏崎港を出港しました。能登半島までは多少のゆれはあったものの、韓国は晴天、「飛鳥」ならではの豪華で優雅な船旅を楽しみました。

船内では、いろいろなアトラクションやカラオケ大会が行われ、紺碧の海原の上でのデッキランチやスパは陸上では味わえない感動を与えてくれました。

子供から年輩の方まで十二分に楽しめるこの「飛鳥」クルージングは、平成11年8月にも、再びウラジオストクへ向けて開催されます。

～レポート～

「日本沿岸域学会第11回シンポジウム」開催
～海・山・川の観光資源を生かした青森県日本海沿岸域の活用を提言～



(パネルディスカッションの様子)



去る9月2日、青森県鯉ヶ沢町で日本沿岸域学会第11回シンポジウムが開催されました。

会場となった昨年オープンした日本海拠点館には、日本全国から集まった会員等約450名が「豊かな自然を生かした文化・観光の創造」をテーマに検討しました。

同学会は海岸線と陸域からなる沿岸域を、内陸と海洋とのインターフェースの役割をする第三の国土空間と位置づけ、産・官・学の領域を超えた研究・討論の場であり、その成果を広く社会に還元することを目的として昭和63年に発足し、毎年シンポジウムを開催していて、東北地方では初の開催となりました。

実行委員会と主催者代表が開会の挨拶をし、成田青森県副知事並びに斉藤鯉

ヶ沢町長の歓迎の挨拶の後、青森大学教授でエッセイストの見城美枝子さんによる特別講演により、シンポジウムは始まりました。見城さんは、「豊かな自然や文化とのふれあい」と題し、日本の大都会の沿岸域(港湾)の現状を埋立等により鍵のような形をしていると表現し、また、四方を海に囲まれた日本が、かつて遣唐使等によって大陸と文化交流していた例を挙げ、「当時の日本人の心意気が伺い知れるもの」と、自ら教鞭を執る建築社会学の観点から講演を行ないました。

パネルディスカッションでは、渡辺貴介東工大大学院教授をコーディネーターに、下村彰男東工大大学院助教授、渋沢忠商船三井(株)監査役、前田豪(株)リージョナルプランニング代表取締役、大河原隆青森県商工労働部文化推進観光課長、櫻井冬樹地方史家がパネラーを努め、「豊かな自然を活かした魅力ある沿岸域の形成～海・山・川を活かした文化・観光の創造に向けて～」をテーマに討論し、同拠点館を、ロシアや韓国等、環日本海交流の文化・交流・情報発信の基地として利用し、海から山まで繋がった観光資源を活かした新たな観光スタイルを築き、全国キャンペーンの展開を行うなど、青森県日本海沿岸の活用策を提言しました。

(第二港湾建設局青森港湾工事事務所広報係長 高谷 浩一郎)

編集後記

今回の通信は一建の担当でしたが、二建さんから記事を書いてほしいとの依頼がありました。非常にうれしく思っています。

どこの担当の時でも、どんな内容でも、積極的に「にぎわい通信」の紙面を活用する。交流の第一歩として、こんな姿勢も、特に日本海沿岸地域(一建だけかも)には必要なのでは?なんて思いました。

☆皆さん、積極的に「にぎわい」紙面を利用しましょう。

☆臨時号を出したって構わないのです。1ページでも構いません。

☆我々の「にぎわい通信」であり、「通信」の内容はなんでもいいのですから。

今夏、富山県新湊市で開催された「平成10年度総会」において議題になりました「5年目以降の協議会のあり方について」、これについても積極的な姿勢で、考えていくことが大切なのではないかと思いました。

(第一港湾建設局 企画課)

編集

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

第一港湾建設局 企画課内

TEL 025-265-7781

FAX 025-230-3680